

それぞれが持つ、それぞれの祭

赤池 会社員

山崎 赤池の同僚。

豊島 赤池の課の課長

三田 部長。

オフィス。

事務作業中の山崎の所に赤池がやつてくる。

赤池山崎。

h?

これ。(袋を渡す)

え？ 何？

誕生日だろ？

お、ありがとう。・・・一二一二四。

ちよつと良いやつ。

ありがとう。あ。

h?

誕生日の事、課長には内緒で  
・・・。

ああ判つてゐ判つてゐ

豊臣かや二て来る

豊島 いや一良かつた良かつた。

あ！  
課長！

どうしたんですか？

やあ鐵工所の納期

どうしたの？

元  
一  
?

元氣小史

元(三編)卷之二

どう? 可か妙にてソシヨノ高ハガバ。

一九、ナショナルソフ

おのれの歌の歌詞を歌う。歌詞は歌の歌詞を歌う歌。

卷之二十一

卷之三

卷之三

二  
六

テンシン上かるような事何も無いもん  
もないてすから！な？俺は

山崎 まあ・・・。

山崎 ん？じゃあ山崎くんは何かあるの？

赤池 いやいやいやいやいやいやいやいや！落ち着いてください！

山崎 お前が落ち着け！

赤池 いいですか？（山崎を見る）誰も、誕生日じゃあ、ないんじゃない、かも知れない、もんなあ？

え？

赤池、

山崎 山崎くん誕生日なの？

え！？

山崎 いやあ、

赤池 あ！・・・大丈夫。人事に聞くから。

山崎 豊島 誕生日です！

え？

山崎 豊島 誕生日です、俺、今日。

赤池 （ため息）

山崎 いやお前のせいだよ？

山崎 豊島 山崎くん誕生日なの？

山崎 豊島 あ、はい。

山崎 豊島 早く言つてよ！みんな知つてるの？

いや、

山崎 豊島 じゃあ社内メールだね！

山崎 豊島 いやいやいやいや！大丈夫です！そこまでしなくて！

山崎 豊島 いや、でも誕生日なんでしょ？

山崎 豊島 誕生日ですけど！

山崎 豊島 ね？じゃあ何人来るか確認しないと、予約出来ないでしょ？

山崎 豊島 いや、なんですか予約つて！いいですよ！何もしなくて！

山崎 豊島 いや、一応さ、ダメもとで電話してみようよ。空いてるかも知れない

し、『ディナークルーズ』。

山崎 豊島 ディナークルーズ！ディナークルーズ！

山崎 豊島 あ、大丈夫。心配しないで。お金は俺が出だから止めてるんです！いくらすると思つてるんですか！

山崎 豊島 確か、

山崎 豊島 知つてます！課長が『ディナークルーズ』の値段知つてるの知つてます！

だつて本当に行つたの知つてるからー！

伝説ですからね。課長が受付の浜田さんの誕生日にみんなをディナークルーズに連れてつた話。

伝説つて大袈裟だなあ。

大袈裟じやないです。その後のしばらく昼飯抜きで過ごしてた話も含めて伝説です。

そうなの？

はい。あの大丈夫なんで。別に誕生日だけど何もしなくても。いやいやそういう訳にはいかないでしょ。

いや、本当に何もしなくていいですから、あ、あ、ちょっと待つて。

豊島が一旦去る。部屋の外から豊島と三田の声が聞こえる。

豊島 部長！部長！こっちです！

三田 痛たー何！？何！？

山崎 いやいやいやー何でもないです！何でもないです！

豊島が三田の胸ぐらを掴んで連れてくる。

三田 襟を、襟を引っ張るんじゃない！

豊島 いやあ部長良いところに。

三田 何？どうしたの？

いやあ・・・大した事じやないんですけど・・・。

赤池 三田 私、大した事じやないのに襟引っ張られて連れてこられたの？

・・・いやあ・・・。

部長、大した事じやないのに襟引っ張る訳ないじゃないですか。そうだよね。

まさに驚天動地の大事件！

驚天動地の大事件？

そんなハードル上げなくとも・・・。

なんとーここにいる山崎くんー・・・本日誕生日です！おめでとうございまーす！

豊島

赤池

豊島

三田

豊島

三田

豊島

赤池

豊島

三田

豊島

赤池

豊島

三田

豊島

山崎

豊島

三田

豊島

山崎

豊島

山崎

豊島

山崎

豊島

豊島

山崎

豊島

赤池

赤池

豊島が拍手。気まずそうな山崎を見る三田。

三田 ．．．そうなの？  
山崎 ．．．はい。

三田、襟を見る。山崎を見る。豊島を見る。襟を触る。山崎を見る。気まずい山崎。

三田 おめでとう。  
山崎 ありがとうございます．．．。

三田 もう．．．いいかな？  
山崎 ．．．はい。

三田 豊島 待ってください！ちょっと待ってください！山崎くんはウチの課のエースとして、  
エース？

三田 豊島 はい。字が綺麗なんです。そんなエースの山崎くんの誕生日会がこのあと開催されるんですが、そこで部長にスピーチをお願いできませんか？

山崎 いやいやいや！

三田 スピーチ？誕生日会？

山崎 やりません！誕生日会、やりません！

豊島 大丈夫だつて！心配しなくて！あの、場所はクルーズ船を貸し切つ

てですね、

三田 クルーズ船！？

山崎 いやいやいや！

三田 そんな大掛かりな会なの？

部長、誕生日っていうのはですね、全ての人が、一年に一度、平等に与えられたお祭りなんです。私はそんな祭りに、全力で当たりたい。全力すぎるんだよなあ。

豊島 お願いします！部長だけが頼りなんです！  
三田 まあ、そんなに言われたらね。

山崎 いやいやいや！

三田 いいですいいです！スピーチなんかしなくて！  
山崎 え？「なんか」？

山崎

え？

いやあの、課長！俺、誕生日会は自分で企画します！

山崎

課長は何もしなくて大丈夫です。俺の祭は、俺が仕切れますから！

豊島がゆっくりと拍手をする。

赤池

課長・・・。

三田

何が起きているんだ・・・。

豊島

確かに。確かに山崎くんのいう通り、君の誕生日という祭りは、君が

山崎

取り仕切るべきだね。どうやら私は少し・・・お節介だったようだね。

赤池

ええ・・・だいぶ。

豊島

それじゃあ君の誕生日会は、君に任せたよ。私は社長の誕生日にサブ

ライズで発注した、巨大社長モニュメントの置き場所を見繕つてくる

赤池

から。

豊島

巨大社長モニュメント？

赤池

うん。鉄工所から連絡があつてね、社長の誕生日には間に合つみたい

豊島

だから。

山崎

へえー・・・。

豊島

・・・山崎くん。良い誕生日に、なるといいね。

赤池

あ、はい・・・。

三田

結構です。

山崎

あ、うん。

暗転。

豊島が去る。取り残され氣まずい三人。